

# 寝屋川民報

議会版

発行  
日本共産党  
寝屋川市議員団  
824-1181  
(内線 2399)  
FAX No. 824-7760  
Email: jcpncc@cc-net.or.jp  
No. 1984

田中 ひさ子  
国松町 10-36  
☎ 823-1714

寺本 とも子  
豊里町 38-1-105  
☎ 829-9424

中林 かずえ  
宝町 4-33  
☎ 839-2289

中谷 光夫  
高宮 2-19-5  
☎ 823-5947

松尾 信次  
下木田町 12-6  
☎ 821-7427

## 12月市議会本会議

# 議員定数削減案を否決

## 議会の役割後退させる 議員定数削減

市民派クラブが提出した市会議員四名削減の条例案が、七日の本会議で審議がされました。

日本共産党の松尾議員が質問しました。松尾議員は、市議会のはたすべき役割が、①市民の多様な意見を市政に反映させること、少数の意見や異なった意見もきちんと反映させること②行政の監視・チェック機能をしっかりと、を提案者にも確認しました。

は、「それぞれの議員が自覚することがもたらされる」などと、定めた。数削減にむずびつく具体的答弁はありませんでした。

### 行財政改革を理由に 議員定数減らすべきでない

松尾議員は、「議員の法定数三十八を十人も減らせば、少数意見は反映されなくなる、議会のチェック機能が弱まること大きな問題である」と述べました。

この問題を指摘しました。そして、来年四月の市会議員選挙を間近にひかえた時期に定数削減をすることは、市民的に周知できないことなども指摘しました。

松尾議員は、「議会は行政組織の一部ではなく、独立した組織として、しっかり役割をはたすことがもたらされている」とし、「行財政改革」の名で、議員定数削減をすすめる



### 萱島駅エレベーター 二十五日から利用可能に

京阪萱島駅構内（京都側）のエレベーターが、二十五日より利用可能となります。エレベーターは二基

今議会では市民派クラブが議員定数削減を提案しましたが、いちばん驚いたのは、四年前の定数削減に反対した議員が、共同提案者に加わっていたことでした▼この方は「市民誰もが持っている選挙に立候補する権利を狭めることになる危険性が強く、市民の民意の反映という議会本来の責任を果たすにはマイナスの効果を発揮すると判断」民意の反映を尊重するという観点から定数削減に反対をいたします」と、明確に反対しました▼本会議で、なぜ今回定数削減の提案に加わったのか、説明をとめました。提案した代表者は「人間の考えは状況に応じて変わるもの」と答弁。ご本人からは「議会費の削減で報酬削減のほうが必要と考えているが、今回はより賛同のしやすい定数削減の提案が必要と考えた。熟慮のうえ提案者になった」と答えました▼議員定数の削減は個別の小さな問題ではなく、地方自治や民主主義のあり方の基本に関わる問題です。四年前と態度を変える以上、十分な説明が必要であり、答弁は理解できないものではありませんでした。

### 法律相談

とき: 12月21日(木) PM6:30~  
ところ: 寝屋川市民会館第4・5会議室  
☎824-1181(内2399)

弁護士がご相談にのります。遠慮なくお越しください。  
お問い合わせは市会議員団まで

しかし、提案者から

# 民間廃プラ処理施設稼働

## 住民の健康被害 因果関係明らかに

### 専門家による健康調査 七〇〇メートル以内の地域発症しやすい

市内打上地域に廃プラスチック処理工場「リサイクル・アンド・イコール社」が〇四年八月に建設され、その後の稼働に、一致して周辺住民が悪臭、目やノドの痛みなどの健康被害を訴えています。

今年七月、岡山大学の津田敏秀教授、頼藤貴志医師が住民の協力をえて健康調査を行い、イコール社の操業と周辺住民の健康障害の関連を、定量的に評価しました。

対象者は寝屋川市民一五七九人で、廃プラ処理工場から一〇〇〇メートル以内に居住する住民一四八二人と工場から二八〇〇メートルはなれた住民九十七人です。

その結果は、イコール五年よりも、本格稼働一様々な症状を呈する人が増えていたこと。

### 昼間家に滞在する対象者 皮フ症状を発生しやすい

今年七月の時点で、二八〇〇メートルの地域と比べると、工場に近づくにつれ、咽頭痛、眼脂などの粘膜症状を呈しやすく、特に工場からの距離七〇〇メートル以内の地域で症状をしやすいことが示されました。

更に昼間家に滞在する対象者では、粘膜症状以外にも皮フ症状など、様々な症状を発生しやすいという結果が示されました。

### 「子どもの医療費助成制度」の 拡充を求める請願 委員会で審査

「子どもの医療費助成制度」の拡充を求める請願（請願者・乳幼児医療費助成制度の拡充をすすめる会・代表原田佳明氏）が、八日の厚生常任委員会で審査が行われました。

紹介議員を代表して松尾議員が趣旨説明を

おこない、「人口減少、少子化のもと有効な施策であり、府下最低クラスから脱却して制度の拡充を」と訴えました。

質疑のあと、田中議員が賛成討論をおこないました。採決では、日本共産党のみの賛成

症状のオッズ比（曝露と結果の関連の度合いの指標）の上昇が目立つたとされています。

今回の調査結果は、イコール社の工場稼働と健康障害の因果関係を強く示すものとなっています。



津田教授は、「これ

#### 議員日誌



松尾  
信次

九日（土）午後、萱島地域を自転車ですべて走っていると、文化住宅の前に市の公用車が停まっています。

一人ぐらしの高齢者（男性）をヘルパーが訪問すると、カギがかかったままで出てこられず様子が

おかしいので、市保健福祉部に連絡があり、市職員と地域の民生委員も来ておられました。

さっそく、救急車と警察に連絡し、救急隊員が窓をあけて中へ入ると、男性は寝たまま、話ができない状況で、救急車で病院に搬送されました。

私はたまたま通りかかったのですが、ヘルパー、民生委員、市職員の連携で早急な対応ができて良かった。関係者の皆さんごろうさまでした。